展勝地風土記

Vol.2

平成24年10月26日

展勝地開園100周年記念事業準備委員会

お問い合せ／北上市建設部都市計画課 内線4315

展勝地開園100周年記念事業準備委員会で、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。

展勝地のお宝　国見山廃寺跡

北上市立埋蔵文化財センター

国見山廃寺と極楽寺

国見山廃寺について説明依頼を受けるときに、極楽寺跡とか極楽寺文化について説明してください、と言われることが多い。極楽寺といえば、現在も国見山廃寺跡の史跡範囲にあるお寺も真言宗智山派国見山極楽寺ですがここの名前が使われたのでしょうか。それも答えの一つなのですが、実はそれだけではありません。それは、国見山廃寺の発見と大きく関わっているのです。

北上市街地の東、北上川を挟んで市民の憩いの場所である展勝地と国見山があります。この山の南側中腹に今から千年ほど前、平泉中尊寺の建立より150年も前に、多くの堂塔が立ち並ぶ東北でも有数の大きなお寺がありました。ところがこのお寺は、平泉中尊寺が建立されるころにこつぜんと姿を消してしまいます。それから長い年月、お寺は次第に山の中に埋もれていきました。江戸時代の記録にはときおり、大きなお寺があったことを地元の人たちが語り継いでいたことが記録されています。ただ、その伝承も次第に忘れられていき、唯一、この地域の地名などにホウトウヤマ、ベットウボウ、ガクトウボウなどお寺に関係するようなものが多数残っているだけとなりました。今は多くの人に知られる国見山廃寺ですがこのように埋もれてしまい、書物にもほとんど残らないままその存在は忘れさられていったのです。

この失われた大寺の存在を明らかにして世に知らしめたのが、地元の歴史研究者である司東真雄先生です。司東先生は、極楽寺の住職であり岩手県文化財保護審議会委員を務めた人です。戦前から地道に研究を重ね、江戸時代の記録、周辺の地名などから国見山に注目しました。そして道路工事の際に、山中から平安時代の瓦が見つかったことなどから平安時代の古代寺院の存在を確信したのでした。しかし、木々が生い茂る山中にそんな大きなお寺があるなど、一般の人だけではなく研究者からもなかなか理解は得られませんでした。

国見山廃寺跡の存在を世に広めた司東真雄先生

戦後、地方から歴史を見直す機運が高まり、平泉では盛んに発掘調査が行われ、中央にも引けをとらない仏教遺跡が、北東北にあることが次々と明らかになっていました。司東先生は、この機に何とか国見山に古代のお寺があることを証明しようと考えたのでした。平泉の調査に来ていた寺院建築史の第一人者である東京大学の藤島亥治郎先生、考古学者である岩手大学の板橋源先生に北上に来てもらい、国見山を案内して発掘調査の必要を訴えたのでした。藤島先生、板橋先生は、こんな山中に古代寺院がと思いながらも司東先生の熱意にほだされ、昭和38年、ついに国見山へ北上市教育委員会・岩手大学を中心とする調査団により発掘調査のメスが入れられたのです。そして、最初に調査した地元の人がホウトウヤマと呼ぶ丘陵の頂から木造多層塔跡の土台石を見つけたのです。まさにホウトウヤマ＝宝塔山だったのでした。塔は特別な大きなお寺しか持てないものです。間違いなく

板橋源先生、藤島亥治郎先生を案内する司東真雄先生（立っている人物左から）
昭和37年菊池啓治郎氏撮影

ここに忘れ去られた大寺があったことを示していました。司東先生の長年の思いが証明された瞬間だったことでしょう。塔の発見に藤島先生、板橋先生も大寺の存在を認め、発掘調査はその後4年間行われ数多くの堂塔跡を見つけていったのでした。

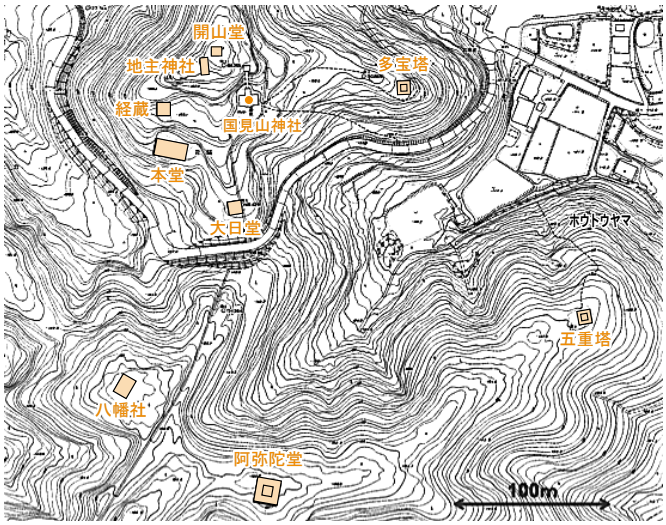
司東先生はさらに研究を進め、それが平安時代の史書『日本文徳天皇実録』の天安元（857）年の記事に書かれている定額寺※ 陸奥国極楽寺であり、この国見山で見つかった大寺院であるという説も確信しました。そして、その定額寺極楽寺説から極楽寺跡、極楽寺文化という言葉が普及したのでした。今でも研究者の中には、東北地方の定額寺の場所が特定できる寺として国見山廃寺をあげる人が多くいます。では、なぜ今は国見山廃寺と呼ぶのでしょうか。それを変えたのも発掘による新展開でした。それについては次回へ続くとします。

※定額寺とは、寺の運営を国が保護（補助）する寺院のことです。

司東真雄氏が建立した皇紀2600年記念碑（昭和15年）
国見山神社拝殿脇の岩塊の上に建てられ、文徳天皇実録の一文が刻まれている。この頃すでに国見山に平安時代の寺院跡があることを確信していたのであろう。

司東真雄：明治39年10月北上市稲瀬町に生れる。大正15年智山大（現大正大）別科卒。極楽寺住職、権大僧正。岩手県・宮城県史編纂委員、奥州大学教授、岩手県文化財保護審議会委員など。河北文化賞、第1回岩手日日文化賞、勲五等瑞宝章を受ける。北東北の古代史研究に多くの成果を残した。平成6年12月25日逝去。
主な著作として「岩手の歴史論集」ⅠⅡⅢ、「東北の古代探訪」がある。

国見山廃寺跡の堂塔跡分布
※堂名は推定です



発見当時の塔跡
建物跡の中央に心柱を載せた石（心礎）があることから塔跡であることがわかりました。